

令和7年度研究プロジェクト計画概要

研究種別	■自主研究 1	公益目的事業 11
主査名	井原健雄 香川大学名誉教授・亀山嘉大 佐賀大学教授	
研究テーマ	四国・九州地域における新技術（AI・EV）と新システム（共同運行）の導入に関する技術的・経済的・法的な調査・研究	
本研究の目的は、前年度に実施した「技術的・経済的・法的な視点の融合に基づく四国・九州地域における移動・輸送手段の自動化の現状と課題」において実施した調査や議論をもとに、①AI デマンド交通にかかる住民ニーズと利用実態の分析、②AI を活用した自動運転にかかる運転士を感じる課題、AI で動く EV バス製造メーカーを感じる課題の調査、③AI デマンド交通や AI を活用した自動運転、EV バスの運行、さらには、複数会社による共同運行に係る法的な課題の整理、並びに、環境効果の調査 によって、調査・研究を深化させていく。 交通政策の基本精神は“地域の足は地域で守る”ことであるが、現在のスキームのもとで、公共交通の維持をしようとすると、赤字経営や人手不足の問題から逃れることはできない。本研究が取り上げる四国・九州地域では、地域公共交通網の維持が困難になる中、都市の縮退（shrink）が課題となって久しいが、都市計画など土地利用のあり方は容易に変わらない。本研究では、未来展望が描きにくい地方の公共交通に対して、AI デマンド交通、AI を活用した自動運転、AI で動く EV バス、複数会社による共同運行といった新技術や新システムを取り入れた現場を見ていくことで、課題の克服に努めたい。これらの新技術や新システムの効果を経済的・法学的な視点から融合的に評価することには意義があるものとする。 本研究では、前年度の議論や課題をもとに、調査・研究を深化させていく。その方向性は大きく3つである。①唐津市で実施した AI デマンド交通に関する住民アンケート調査のサーベイデータを活用し、計量分析を実施し、住民の行動の特徴と AI デマンド交通の利用の関係を明らかにする。②AI を活用した自動運転の課題につき、西日本鉄道と伊予鉄道の運転士を調査対象に、アンケート形式で、所属の運転士が自動運転の実証経験（同乗）に際し、どのような課題をもっているのかを問いたいと考えている。あわせて、AI で動く EV バスを伊予鉄道に供給している EV バス製造メーカー（北九州市に本社がある EV モーターズ・ジャパン）にも調査を行い、製造段階での課題などを問いたいと考えている。③AI デマンド交通や AI を活用した自動運転、EV バスの運行、さらには、熊本市で九州産交バスのイニシアティブで進んでいる共同運行を調査し、これらの新技術や新システムの導入に係る法的な課題を整理するとともに、環境効果を調査する。基本的には、前年同様に、工学、経済学、法学などの学際的な専門知識を融合させた議論を進め、報告書にまとめる。		